

## IT戦略・システムリスク管理

### 考え方・基本姿勢

大和証券グループは、グループ中期経営計画“Passion for the Best”2017におけるIT戦略（IT基本方針）として、経営ビジョンである「日本及びアジアの資本市場の発展をリードし、お客様に最も選ばれる総合証券グループ」の実現に向けた「戦略的なIT投資」と「ITガバナンス強化」を掲げ、これを推進しています。

### ITガバナンス体制

当社グループでは、大和証券グループ本社に「グループIT戦略会議」（執行役会の分科会）、グループの中核である大和証券に「IT戦略会議」（経営会議の分科会。2015年9月新設）をそれぞれ設置し、ビジネス面でのニーズや制度・規制などの環境変化を踏まえた中長期のIT投資方針やIT投資計画に関する事項を審議決定しています。また、CIO\*を議長とする「グループITマネジメント会議」（グループIT戦略会議の事前協議機関）を設置し、グループ各社の中期的なIT戦略や共通する課題について担当役員レベルで協議する体制を整備しています。

金融規制強化やサイバー攻撃の深刻化・巧妙化、金融とITを融合した先進的なサービス（Fintech）の広がりがグローバルに進行するなか、CIOが上記の会議体などを通じて海外拠点を含むグループ全体のITに関する業務全般を統括し、グループ内の連携強化やグローバルベースのリスク管理強化に取り組んでいます。

※ Chief Information Officer：最高情報責任者

### 戦略的なIT投資

当社グループでは、経営戦略とIT戦略の同期を図ることが重要であるとの認識のもと、グループの経営目標および事業戦略の実現に寄与するIT投資にリソースを重点的に配分しています。事業継続に不可欠な税・制度対応やインフラ基盤整備についても、戦略的なIT投資との同期を図ることでビジネスの付加価値を高めつつ実行しています。具体的には、“貯蓄から投資の時代”をリードする投資サービスの提供に向けた「新たな顧客層（次世代富裕層・若年者層）へのアプローチ強化」、「幅広い投資家層のニーズに対応していくための営業効率・質の向上」を重点テーマと位置付け、少額投資非課税制度（NISA）やオンラインサービスの利便性向上、営業サポート機能の拡充などを進めています。

営業活動におけるITの活用について、従前より当社グループは対面・非対面の両チャンネルで積極的に取り組んできましたが、加速するITの進展により先端技術の活用が事業戦略上ますます重要になってきていることから、その調査・研究にあたる専門組織として「AI推進室」「先端IT戦略部」を新設するとともに、CIOをヘッドにグループ横断で先端技術を活用した金融イノベーションについての協議を開始するなど、取組みをより一層強化しています。

### システムリスク管理

当社グループは、さまざまな脅威やリスクから情報資産を保護し、お客様に高品質なサービスを安定的に提供するため、システムリスク管理態勢の維持・強化に取り組んでいます。具体的には、ネットワークや情報システムの稼働状況のモニタリング、ならびに定期的なリスク評価にもとづいたシステム品質の向上に取り組むことで、リスク発現の未然防止に努めています。2015年度に受入れを開始した個人番号（通称：マイナンバー）についても、番号情報の暗号化、厳重なアクセス制御など、先端技術を用いた適切な安全管理措置を導入しています。

特に近年はサイバー攻撃など外部からの脅威が深刻化・巧妙化してきており、海外拠点を含むグループ全体として組織・技術両面での態勢整備が重要となっていることから、外部機関とも連携して攻撃手法や脆弱性に関する最新情報の収集・分析に努めるとともに、外部からの不正な侵入を防ぐ「入口対策」と不適切な権限利用を防ぐ「内部対策」、外部への情報流出を防ぐ「出口対策」といった多段階の対策を組み合わせた多層防御を講じるなど、専門組織（CSIRT\*）を中心としたサイバーセキュリティ管理態勢の強化に継続的に取り組んでいます。

※ Computer Security Incident Response Teamの略称。  
部署横断的なサイバーセキュリティの管理組織